

流行ニュース：

## &lt;リフトバレー熱発生、イエメン&gt;

2000年10月9日現在、イエメン厚生省はリフトバレー熱の感染症例321例、死亡例32を公表した。サウジアラビアとイエメンは共同調査を行うことに同意。WHOはこの国際調査をサポートし、研究能力の拡大や設備の充実によりイエメンでのリフトバレー熱の更なる発症拡大を回避するための費用援助を求める活動を行っている。

今週の話題：

## &lt;推奨されるインフルエンザワクチンの組成、2001年&gt;南半球の冬季(2001年5月~10月)

## \* 2000年3月~9月におけるインフルエンザの動向：

南半球ではアフリカでは3月頃から流行が報告されるようになった。南アメリカでは6・7月が集団発生のピークであった。A(H3N2)、Bウイルスとも分離されたが、Aの割合が多い。

## \* 最近単離されたウイルスの抗原的特徴：

- ・ インフルエンザ A(H3N2) ウイルス：大半は A/モスクワ /10/99 型や A/パナマ /2007/99 型と関連している。少数は関連していないが、代表的な変異種は明らかではない。
- ・ インフルエンザ A(H1N1) ウイルス：大半は抗原的に A/ニューカレドニア /20/99 型に関連。
- ・ インフルエンザ Bウイルス：B/北京 /184/93 型や B/山梨 /166/98 型と抗原的に区別ができる。大半は B/四川 /379/99 型と密接に関連する。

## \* インフルエンザウイルスワクチン組成の推奨：

A/パナマ /2007/99 型の抗原を含む現在のワクチンは最近学離されたウイルスに対する H 抗体産生を刺激する。

- ・ インフルエンザ A(H1N1) ウイルスに対して A/ニューカレドニア /20/99 型抗原をもつワクチンが抗体産生を高める。
- ・ インフルエンザ Bウイルスにおいては、B/山梨 /166/98 型のワクチンは B/四川 /379/99 型のウイルスに対しての抗体産生は力価・頻度とも低い。

## \* 2001年、南半球の冬に使用されるワクチンとして以下のものを含むことを推薦する。

- ・ A/モスクワ /10/99 (H3N2) 型に類似したウイルス
- ・ A/ニューカレドニア /20/99 (H1N1) 型に類似したウイルス
- ・ B/四川 /379/99 型に類似したウイルス

## &lt;マラリア研究&gt;

マラリアの新規、または既存の介入戦略を計画し、評価そして再評価するためには、基礎科学研究から社会科学、政策分析まであらゆるレベルの調査が不可欠である。どのような戦略も予期しなかった影響や結果が必ず生じるため、施行中のプログラムの分析を行うことは絶対に必要になってくる。最も期待できる抗マラリア介入戦略の一つに殺虫網(以下 ITNs)がある。ITNsはマラリアへの効果も高くコスト的にも能率のよい手段である。しかし、異なる疫学的状況下での ITNs の効果も引き続き評価していく必要がある。また、まだ利用されていない技術に関する研究も重要であり、疫病学者、環境学者、昆虫学者、農学者、経済学者など多方面の研究協力を要する。しかし、このような研究に必要な、広範囲をカバーする比較データ、例えば発生率、有病率、集団発生、臨床疫学、他疾患や栄養状態との関連などに関するデータが不足している。これらの情報不足が、支援や政策計画、伝染病に対する準備、資源配置を行う際にコストを引き上げる原因となっているのである。

経済分析もマラリア研究においては重要である。マラリアによる経済負担を明らかにすることによって、付加的な利益効果や共同利益を生み出すことを目的とした別の戦略を支援することも可能となるからである。また、マラリア感染は子供達の栄養失調を悪化させることもあるため、栄養失調の子供をターゲットにした介入は、栄養失調だけに止まらず、子供達へのマラリアの影響を減少させることにもつながる。以上のように、マラリアには基礎研究、応用研究と共に、現存の介入方法を広く実行することと同様に基礎的な研究も行われなければならない。

流行ニュース続報：<インフルエンザ>

オーストラリア(2000年10月2日)<sup>1</sup>では散発的な流行に止まり、A型の症例が確認された。スイスでは(10月4日)<sup>2</sup> A型ウイルス3種が分離されたことが報告された。(参照<sup>1</sup>No.40,2000,p.328,<sup>2</sup>No.9,2000,p.75)

耐性菌戦略の草稿：

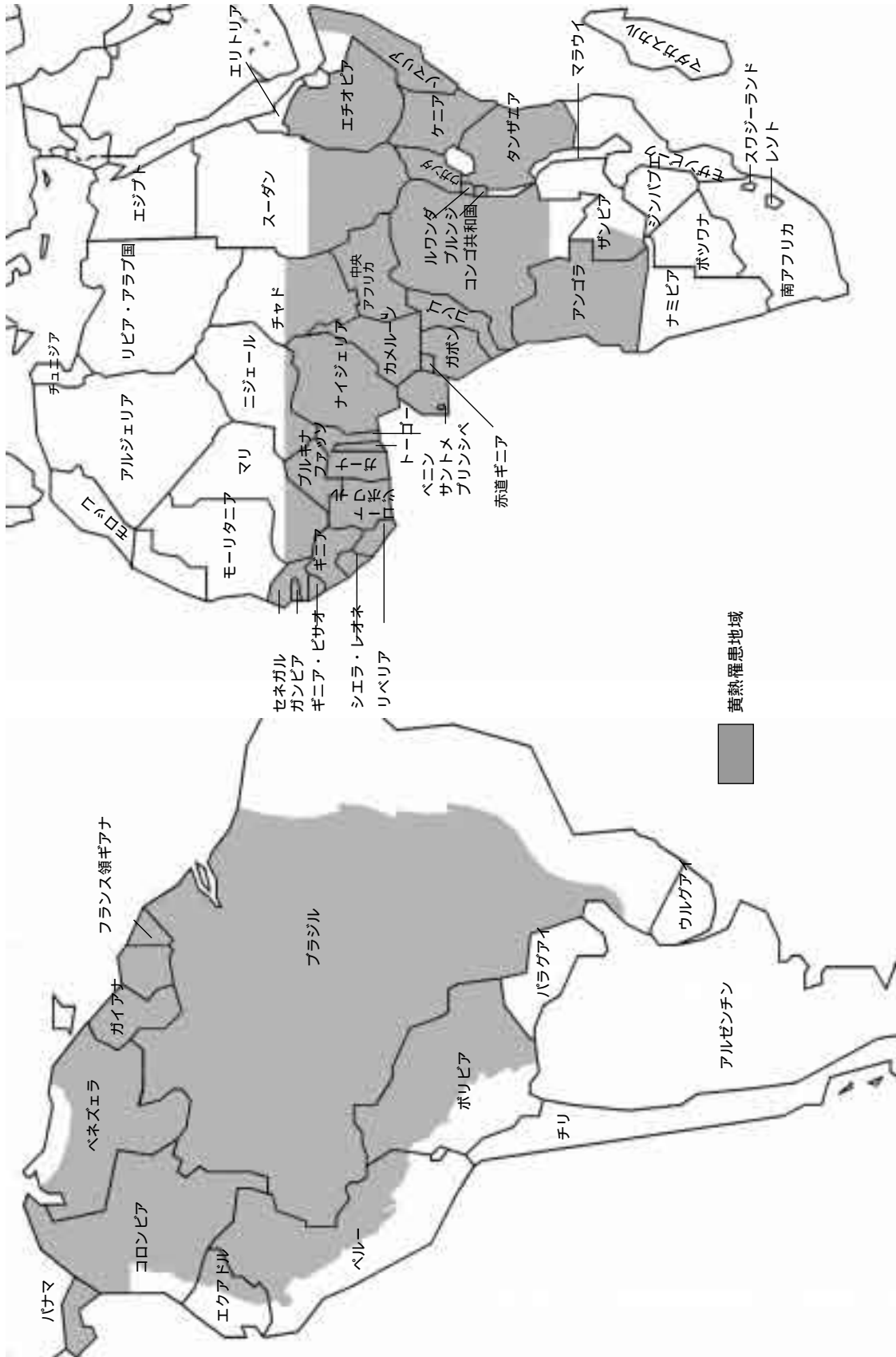
WHOが作成した抗菌に関する世界戦略の草稿がWHOのウェブサイト(<http://www.who.int/emc/amr.html>)で入手可能になった。2000年11月3日以降、ams@who.intで草稿に関する意見を募集する。

(野呂瀬ふみ、村木敏明、石川雄一)

# 黄熱病<sup>1</sup>

この地図は 2000 年のアフリカ・アメリカ大陸における黄熱病の伝染分布を示す。アフリカ大陸では赤道付近を中心にサハラ以南から南はアンゴラまで、アメリカ大陸でも赤道付近を中心に流行している。

参照：<sup>1</sup> No.40 2000 p.322-328



地図 1: 黄熱、罹患地域、アフリカ・アメリカ諸国、2000年